

共生・協働のむらづくりステップアップ事例集

Vol. 8

～共生・協働の^{むら}農村づくり運動の取組紹介～



平成29年3月
鹿児島県農政部農村振興課

はじめに

農村地域の過疎高齢化が進む中、県では平成19年度から、農村が地域住民にとってゆとりとやすらぎの空間となるとともに、都市住民にとっても魅力ある場となるよう「人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会」を基本目標として、集落の推進体制の見直し等による「農村集落の再生」、都市農村交流などを通じた「新たなむらづくりの形成」、耕作放棄地の発生防止や地域資源の活用等による「むらづくりの維持・発展」の3つの取組を柱に「共生・協働の農村(むら)づくり運動」を推進しているところです。

このような中、県内の農村地域では、地域住民の自主的な話し合いを基本に、各種政策を活用するなどして、NPO法人や大学などと協働したむらづくりや農地・農業用施設の保全活動、体験型教育旅行の受入れなど、地域の創意工夫により、様々なむらづくり活動が展開されています。

本事例集は、県内各地域におけるむらづくり活動を紹介することで、共生・協働の農村(むら)づくり運動の普及啓発を図ることをねらいとしており、この事例集が市町村はもとより、関係の方々に広く活用され、農村集落等の活性化が図られることを期待しています。

最後に、本事例集を取りまとめるに当たり、関係市町村及び各農村集落の関係者の皆様に御協力いただいたことに御礼申し上げます。

平成29年3月

鹿児島県農政部農村振興課長

引地 正行

目 次

1	共生・協働の農村づくり運動の概要	1
2	紹介する事例の位置図	2
3	各種表彰事例の紹介	4
	〈平成28年度 農林水産祭 むらづくり部門 内閣総理大臣賞〉	
	・大野地区公民館（垂水市）	5
	〈平成27年度鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰鹿児島県知事賞〉	
	・農村集落部門 上市来地区公民館（日置市）	7
	・支援団体部門 NPO法人プロジェクト南からの潮流（南さつま市）	9
4	共生・協働の農村づくり運動の展開に向けた実践研修の概要	12
	〈鹿児島大学と連携したむらづくり活動〉	
	・「さつま町の梅の地域マーケティング戦略」の取組及び提案内容紹介	13
	〈むらづくり活動推進研修会〉	
	・高山地区公民館（日置市）の取組	19
	・農事組合法人土里夢たかた（南九州市）の取組	20
	〈かごしま農村創生塾〉	21
5	共生・協働のむらづくり活動実践地区の紹介	22
	・羽島地区萩元前団地保全会（いちき串木野市）	23
	・田布川地区（枕崎市）	27
	・終野区（さつま町）	31
	・中甌集落（始良市）	35
	・七村地区（曾於市）	39
	・古田地区中之町自治会（西之表市）	43
	・福元地区（大和村）	47

1 共生・協働の農村づくり運動の概要

(1) 運動名

共生・協働の農村づくり運動

(2) 運動の目標

人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会

農村が農業者などの地域住民にとって、ゆとりとやすらぎを実感できる生活空間となるとともに、都市住民に対して魅力あるライフスタイルを提供する場となるよう、すべての人々が、多彩で豊かな自然や伝統文化などを再認識し、世代、性別、地域、価値観などの違いを超え、共に支え合い、共に築くむらづくり

(3) 運動の推進方向

ア 農村集落の再生

農村集落におけるむらづくりの推進体制の見直しを行い、それぞれの地域の実態に応じたむらの目標や将来像等を示した「むらのかたち」の作成やそれに基づく実践活動等を通して、農村集落内の住民・組織間等の連携により農村集落の再生を図る。

※ 農村集落とは、継続的な農業生産活動及びむらづくり活動が行われている集落

イ 新たなむらづくりの形成

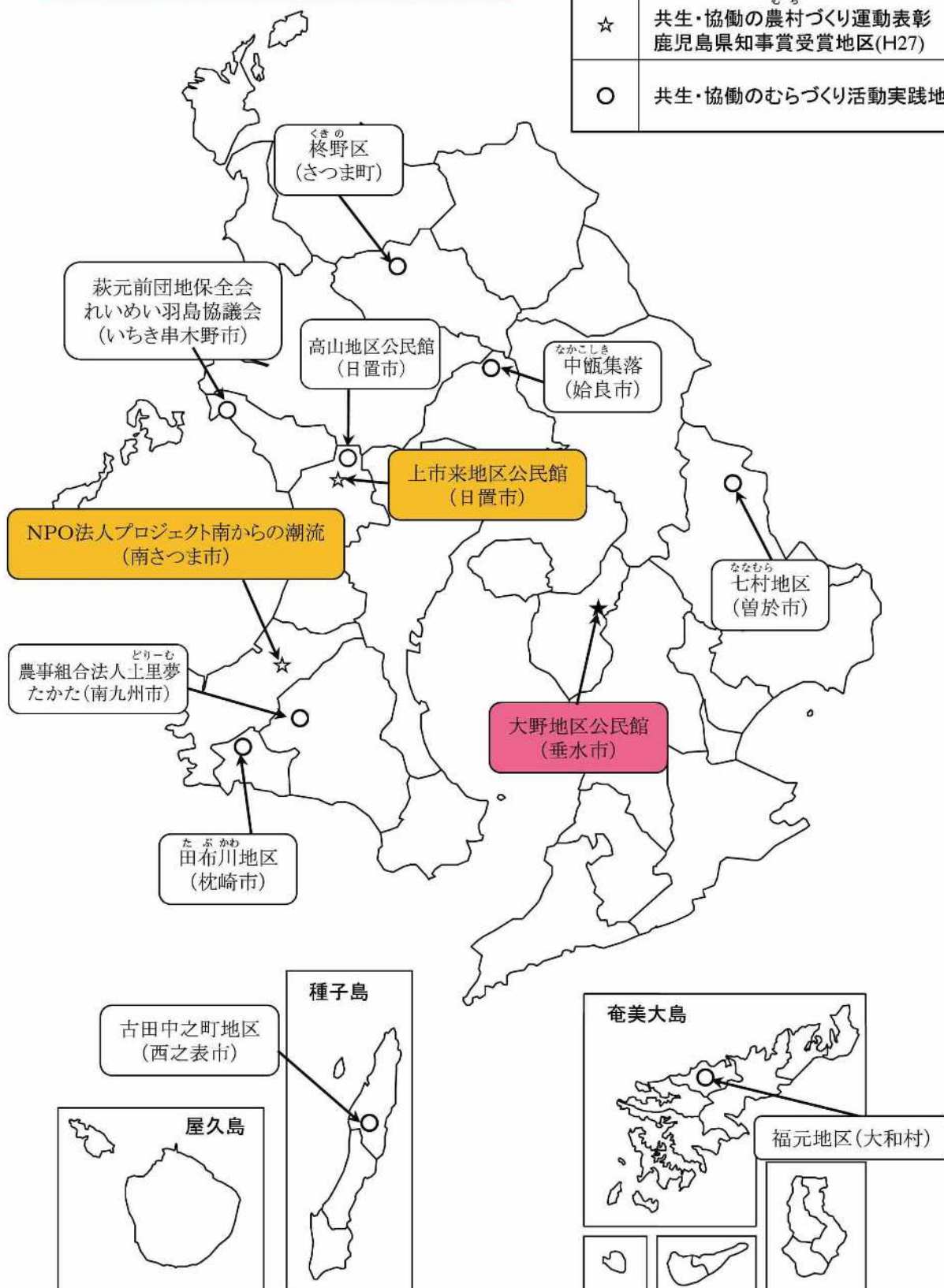
農村集落の活性化のため、NPO法人等や都市住民など地域外の活力の導入や、グリーン・ツーリズム等を通じた都市と農村の交流活動、U・I・Jターン者の定住促進など、集落外の多様な主体との連携により新たなむらづくりの形成を図る。

ウ むらづくりの維持・発展

水土里サークル活動を活用した農村環境の保全や、中山間地域等直接支払制度を活用した耕作放棄地の防止、地域の歴史・文化など地域資源の発掘・活用等によりむらづくりの維持・発展を図る。

2 紹介する事例の位置図

★	豊かなむらづくり全国表彰事業 内閣総理大臣賞(H28)
☆	共生・協働の農村づくり運動表彰 鹿児島県知事賞受賞地区(H27)
○	共生・協働のむらづくり活動実践地区



1 各種表彰事例の紹介

- 農林水産祭むらづくり部門（全国表彰）
- 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰

平成28年度 農林水産祭むらづくり部門 内閣総理大臣賞 (全国表彰)

大野地区公民館(垂水市)

— 開拓魂で未来を拓く 住民総活躍のむらづくり —



毎年約1500人の来場者で賑わう大野原いきいき祭り



大学生も参加する伝統芸能の「棒踊り」

■ 地区の概要

垂水市街地から東北東へ約13km、標高550mの中山間地域に位置する大野地区は、大正3年の桜島の大噴火で家や田畑を失い移住を強いられた人々等が開墾したのが始まりで、冷涼な気候を生かした豆類やさつまいも等の栽培が盛んな地域である。

人口約130名、住民の約半数が65歳以上と高齢化が進んでいるが、近年人口は維持傾向にある。



■ むらづくりの推進体制

活動全体を企画する運営委員会と福祉・教育、産業、住環境の3部門から構成され、鹿児島大学農学部附属高隈演習林や大野小中学校の跡地に設立された、大野ESD自然学校、NPO法人森人くらぶなど地域内の活動団体を公民館活動に取り入れている。



■ 主なむらづくりの取組

□ 「大野づくり計画」の策定

平成18年の大野小中学校の閉校をきっかけに、10年後のありたい姿を模索しながらワークショップや話し合いを重ね、平成23年に「大野づくり計画」を策定した。「大野の人を増やしたい(住む人、来る人)」という目を掲げ、地区内にある大学やNPO法人、大野ESD自然学校等と特産品づくりや都市農村交流活動に取り組んでいる。



□ つらさげ芋のブランド化

さつまいもを寒風にさらし、甘みと旨みを熟成させた、地域の保存食「つらさげ芋」を特産品として売り出そうと、地区独自の統一基準を設け、「大野原ブランド」として販売するとともに、貯蔵庫、つらさげ場を整備し、地域全体で生産拡大に取り組んでいる。

また、「つらさげ芋」をPRするため、平成22年から「大野原いきいき祭り」を実施し、つらさげ芋や地域農産物を販売し、毎年約1,500人が訪れている。

□ 地域資源を活用した加工品づくり

女性を中心とした加工グループが、つらさげ芋のスイーツ開発、廃校跡地のプールで養殖したニジマスの燻製や甘露煮の製造などの商品開発や販売に取り組んでいる。

□ 若者の活力を取り入れた伝統の継承

伝統芸能である「棒踊り」の担い手として、地区内で活動する大学生に呼びかけ、「棒踊り」に参加してもらうなど、伝統芸能を円滑に継承している。

□ NPO法人や大学等と連携した都市農村交流活動

「棒踊り」の参加など住民との交流により大野地区に魅力を感じた若者が、過疎地でも若者が定住し、生計が成り立つコミュニティビジネス活動に取り組むため、平成25年にNPO法人森人くらぶを設立した。

NPO法人と大学、大野ESD自然学校と公民館が相互に協力し、自然体験活動に取り組み、年間約3,000人が大野地区を訪れている。

■ むらづくりの特徴

- ・住民の危機感への解決策を行動計画として策定・実践している。
- ・外部の若い力を取り込みながら、住民総活躍の開拓魂でむらづくりに挑戦している。



つらさげ場で1ヶ月以上吊り下げる



加工グループ「高峠わかば」による加工品作り



小学校跡地のプールでニジマスを養殖



NPO法人森人くらぶによるフットパス

平成27年度 鹿児島県共生・協働の農村づくり運動表彰 鹿児島県知事賞
農村集落部門

かみいちき

上市来地区公民館(日置市)

—みんなが主役!響き合・支え愛・感動の上市来—



8集落が一体となったふるさと豊年祭り



高校生による試食提供
(ふるさと豊年まつりにて)

■ 地区の概要

上市来地区は、日置市東市来地域の北東部に位置し、平成17年の市町村合併後に8つの集落が集約され、自治会が構成されている。

北に中岳、北西に大峰ヶ原、東に重平山があり、地区内を八房川と大里川、江口川が流れる緑と山に囲まれた中山間地域である。

また、日置市の中でも高齢化率が高い地域であり、農林業の不振などの課題にも直面している中、平成21年度からは「ふるさと豊年祭り」を開催するなど、むらづくりの活動に取り組んでいる。

■ むらづくりの推進体制

上市来地区は8つの自治会で構成されており、それぞれの自治会単位で、古くから農業生産や伝統芸能継承に取り組んでいたが、少子高齢化の進行に伴い、それぞれの活動が近い将来でなくなる可能性があった。

そのような中、平成17年度の日置市の合併後に、小学校の校区単位に自治公民館が集約されたことを契機として、8つの自治会が一体となった「上市来地区公民館」としての活動がスタート。

地区住民の話し合いを経て策定した「上市来地区振興計画」をベースに、特産品開発や伝統芸能の継承、定住促進等に取り組んでいる。



伝統芸能の継承

■ 主なむらづくり活動

□ 集落営農組織の取組

田代自治会と元養母自治会では、それぞれの地区住民が立ち上げた集落営農組織の取組により、耕作放棄地の発生防止と地域営農の維持が図られている。

□ 地区内の連携強化

平成21年度から、地区公民館と農家や住民が協働して「ふるさと豊年祭り」を開催。このイベントを通じて、各集落の交流・連携と地域の活性化が図られている。

□ 鹿児島城西高校との連携

城西高校の生徒たちが、地区の特産品コンテストへの出品や、ふるさと豊年まつりでの試食提供等を行うなど、特産品開発につなげている取組が進んでいる。

□ 新たな特産品開発

地域の特産品を生み出すため、しょうがを栽培し、加工講習会等を実施。さらに、特産品コンテストを開催するなど、特産品の開発・販売に向けた検討を進めている。

□ 地区の情報発信と定住促進

平成27年9月から、地区公民館としてfacebookのページを開設。県外に居住する地区出身者からのアクセスも増えつつあり、将来のUターンに繋がるのが期待されている。同時に、新たな市営住宅の建設や空き家調査にも取り組み、移住者の受け皿整備も進めている。

□ 伝統芸能の継承

地区内の各集落では、棒踊りや太鼓踊り等の伝統芸能継承に取り組んでいる。地区公民館では、それぞれの集落の後方支援として、「のぼり」などによる広報活動を行っている。



交流イベントの開催 (ホタルの里のタベ)



特産品コンテストの様子



新たな特産品開発



Facebookを活用した情報発信

■ 今後の展開・抱負

上市来地区振興計画に掲げた「健康で・夢があり・誇れる上市来」というスローガンのもと、同じ課題を抱える他のモデルとなれる地域づくりを目指し、情報発信や空き家対策と連携した移住者の受入体制の整備、地元農産物を活用した6次産業化などに取り組んでいきたい。

■ 表彰理由・講評

8つという広範囲にまたがった集落が団結して取組を行い、1つ1つの集落の機能維持に繋がっているというスタイルは、今後の農村におけるモデルとなるむらづくり活動である。また、集落営農の広域的な取組など将来ビジョンを明確にすることで、生産面においてもさらなる発展が期待される。

NPO法人プロジェクト南からの潮流 — 南さつま市 —



棚田での交流活動(田植え体験)



直売所の建設・運営(大坂ふれあい館)

■ 団体の概要

「砂の祭典(南さつま市)を生かして、もっと地域おこしをしっかりと行いたい」という思いから設立され、平成13年にNPO法人の認証を受けた。

平成18年からは、失われつつある集落の仲間意識やふるさとの良さに触れるきっかけづくりを目的として、棚田での田植えや稲刈り体験等の都市住民との交流事業を始め、集落と協働してむらづくり活動に継続的に取り組んでいる。

■ 主な功績

過疎化が進行する中も、集落の活性化を図ろうとする地域に対し、自ら直売所の建設・運営や特産品開発のノウハウ伝授を行うなど、農村集落と協働でむらづくり活動に継続的に取り組んでいる。

また、「NPO法人プロジェクト南からの潮流」の取組がきっかけとなり、鹿児島大学のボランティアサークル「Free Spot」が設立されるなど、若い世代のむらづくりの人



大坂ふれあい館の移動販売



交流イベントの実施

■ 主な功績

□ 集落の活性化

● 長谷集落での取組

平成18年から集落と協働で地域資源を活用した体験を通じた都市住民との様々な交流活動を展開している。

また、地域の要望に応じて、交流施設の整備を支援するとともに、地域農産物や生活用品を扱う直売所「大坂ふれあい館」を建設・運営するとともに、移動販売にも取り組み、高齢農家の生きがいづくりや生活環境改善に繋がっている。

平成22年度からは「長谷おしゃべりクラブ」を開催し、集落内連携の支援をしている。

● 谷山集落での取組

平成24年から南さつま市谷山集落と協働して、遊休地での農作物の生産・販売や、地域内の段々畑を活用した農作業・加工体験、棚畑ライトアップイベントを実施。地域住民の、農作物や加工品の製造・販売に対する気運が高まり、加工ヘチマのたわしやよもぎ団子、生姜の佃煮等を製造し、南さつま市内の直売所や飲食店で販売するなど、コミュニティビジネスに展開している。

● 久保集落での取組

平成26年度から南さつま市久保集落と協働して、復元した耕作放棄地への農作物の作付けや新たな特産品づくり、都市住民との交流活動等を実施している。

また、伝統行事である鬼火焚きを活用した地域住民の交流促進にも取り組んでいる。

□ 大学生との連携

大学生の協力を得ながらむらづくり活動に取り組み、鹿児島大学学生によるボランティアサークル「Free Spot」の設立に繋がった。現在も継続して連携した活動を実施しているほか、「Free Spot」独自で、集落の保全活動の補助やイベントの実施等に取り組むなど、若者のむらづくりの人材育成が図られている。



「長谷おしゃべりクラブ」の開催



谷山集落での大学生と連携した遊休農地へのしょうがの作付け



伝統行事である鬼火焚きによる地域住民の交流促進



大学生と協力したむらづくり活動

■ 表彰理由・講評

小規模な集落への支援で、確かな実績を残している数少ない組織であり、素晴らしい活動を行っている。

グリーン・ツーリズムや都市農村交流を通じた、地域活性化にとどまらず、栽培のノウハウから販路開拓まで、一貫してサポートし、農村集落の維持等に大きく貢献している。

4 共生・協働の農村^{むら}づくり運動の展開に
向けた実践・研修の概要

● 鹿児島大学と連携したむらづくり活動

共生・協働の農村づくり運動の一環として、平成28年度、日置市とさつま町の2地区で鹿児島大学と連携したむらづくり活動に取り組んでいます。

2地区の活動内容

日置市(ソバ)

調査内容

- ソバ生産の現状と課題
- ソバ関連製品の活用状況
- 飲食店等実需者ニーズなど

鹿児島大学担当

坂井 教郎 准教授

鹿児島大学農学部農業経営経済学講座



ソバ生産者への聞き取り調査

さつま町(西郷梅)

調査内容

- さつま町の産業及び農業構造の変化
- 梅の生産状況や特性
- 梅及び梅製品の消費動向など

鹿児島大学担当

イ ジェヒョン

李 哉沄 准教授

鹿児島大学農学部農業経営経済学講座



大学生によるさつま町内の直売所調査

提案会

試食テストや生産者・関係者等のインタビューなどの多くの調査結果をもとに、大学生のアイデアや大学での学習の成果を加えて、日置市、さつま町へ提案を行いました。



8月3日「さつま町の梅の提案会」



2月15日「日置市ソバの提案会」

今回は、「さつま町の梅の提案会」での提案内容を紹介します。

さつま町における梅を核とした地域マーケティング戦略 ～ さつま町への提案 ～

鹿児島大学への依頼

- ① 消費動向調査による梅の新たな活用方法
- ② 消費者への効果的な梅のPR方法など

具体的な調査内容

- 鹿児島市内でのアンケート調査
さつま町及び梅製品の認知度
梅製品に対する消費者選好
梅干し製品の選択基準…など
- さつま町役場、直売所等の訪問インタビュー
直売の運営状況、自治体の取組状況
- 梅干し及び梅ジャムの市場評価
かつお梅干しと梅ジャムの評価(味、購入意志) など



消費者への梅製品の試食



直売所の実態調査



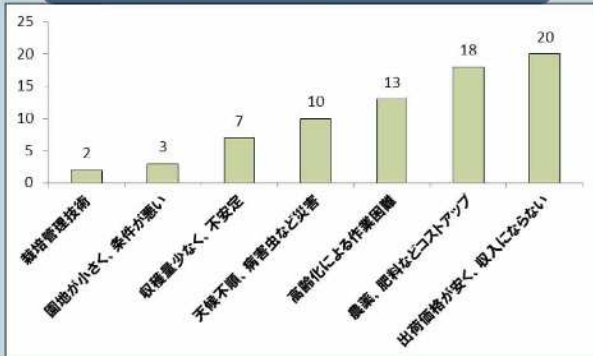
さつま町での聞き取り



直売所の実態調査

調査結果の一部を紹介します

梅生産において困っている点



梅生産者を対象にしたアンケートでは、生産コストが高い、収益性が悪い、高齢化による作業困難等があげられました。

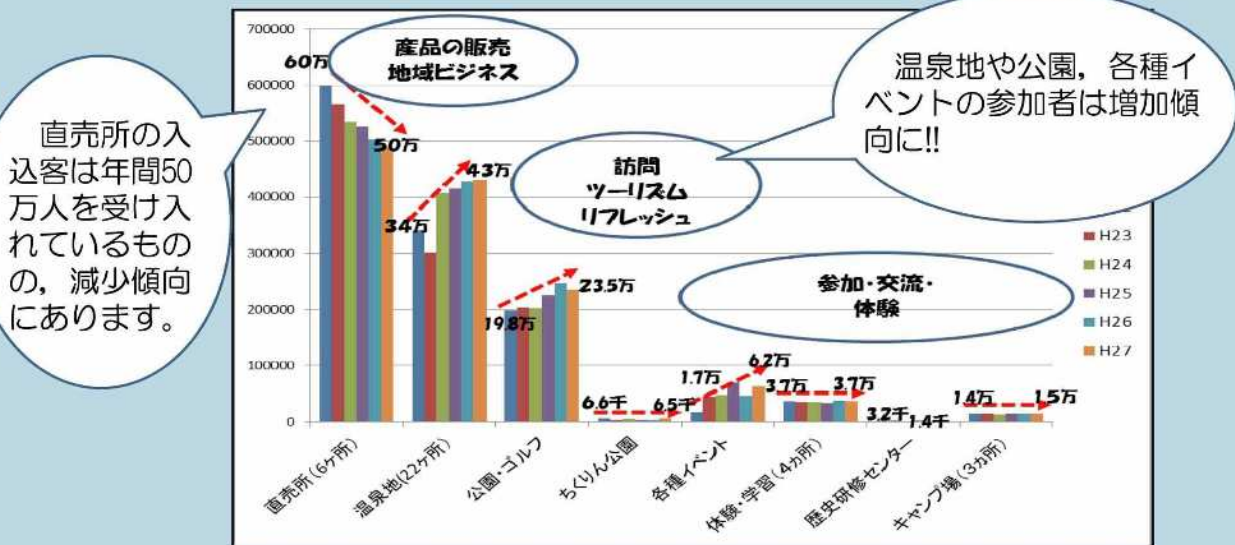
梅製品の販売先



梅製品の売上の約75%をさつま町内の直売所や直接販売で占めています。

さつま町における入込客の推移

販売先のほとんどを占める直売所等の入込客の推移は？



地域の魅力をアピールし、「訪問意識を高める→訪問・滞在→購入」のサイクルが繰り返し機能する仕掛けが必要

調査結果から

鹿児島大学からさつま町への提案

多くの人々が地域を訪れるように地域の魅力をアピールし、訪れた人々が一過性の立ち寄りにとどまらず滞在し、地域のよさを体験し、その延長に地域の特産品を購入し、満足して帰るようなサイクルをつくる戦略が必要ではないか。

さつま町内に人を呼び込むためには……

地域の様々な施設や店舗, 体験プログラムで, 地域固有の資源と, さつま町の梅や竹などの地域ブランドの製品が活用されることが必要

(提案内容の一部)

- 梅製品(梅干し, 梅調味付け等)のコンセプトは, 地産地消, ホンモノ志向に定める
- 枕崎のかつお節とコラボした「梅かつお」で商品を開発し付加価値を付けて販売
- 梅干しの容器としてさつま町の特産品である竹工芸品を, 活用し高級感を出す
- 梅ジャムは主力製品として加工・販売する
(梅ジャムは食経験がなく, イメージが描けないため, 梅干しが嫌いな消費者にも市場を広げる可能性がある)

多彩な食と体験活動と組み合わせ

提案: 製品とそれ以外のセット展開

立春	美しい竹林散策と竹の子掘り ・竹林とそこで採れる竹の子	家族連れ お年寄り
春	梅の花ウォーキング 歩いた後はさつま牛牛歩ツアー ・梅の花ウォーキングとさつま牛 (農毛和牛竹の子丼)	お年寄り
初夏	蜷船でほろ酔いツアー ・蜷船, 蜷船の大きい蜷船と地元産物	若者
夏	家族で夏の思い出を! バンガローに泊まろう! ・キャンプ, バーベキュー, 竹トンボ工作, 滝・山遊び, カヌー体験	家族連れ
秋	さつま町大! 秋の収穫祭 in 観音滝公園 ・観音滝と秋野菜を使った料理の振る舞い	主婦層
冬	さつま町の魅力を大満喫! さつまおごじょツアー ・温泉, 梅料理, 滝のマイナスイオン	女性



梅と竹とのコラボ商品



イメージキャラクター (さつままるちゃん) とのコラボ



おしゃれな持ち帰り用瓶等

(番外編) 学生から提案された自由意見を一部紹介します!!

- 梅モチーフの温泉宿で梅風呂
梅の色やほのかな香りの温泉で癒やしと美容効果
お食事は, 梅とさつま町の素材を生かした会席料理など……
- 期間限定梅スイーツバイキング
- 梅料理コンテスト
県外から募集を募り, アイデアと料理の腕をふるって競ってもら
→家でも作れるメニューをホームページに掲載など

むらづくり活動推進研修会

地域の多様な人材, 豊富な農産物, 伝統的な行事・文化, 自然などの資源を創意工夫して地域活性化に活用する取組や, さらにこれらの価値を高め, 自主財源を生み出す取組などの事例を相互に学ぶ研修会を平成28年11月30日, 鹿児島市内で開催しました。

テーマ

～事例から学ぶ 地域資源を活用したむらづくり～

■ 事例から学ぶ地域資源を活用したむらづくり

- ① さつま町の梅の地域マーケティング活動
鹿児島大学農学部 福田 夢子 さん, 日高 達也 さん
- ② 農産物集出荷サービスで農業生産を維持する仕組みづくり
日置市 高山地区公民館 立和名 徳文 氏
- ③ そば処「案山子」と畜産経営の取組
南九州市 農事組合法人土里夢たかた 有村 光雄 氏
- ④ 食文化を掘り起こし地域ぐるみで磨きあげる特産品づくり
垂水市 大野地区公民館 前田 清輝 氏

■ 意見交換

- ・ コーディネーター
NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会
代表 東川 隆太郎 氏
- ・ 助言者 (株)いろどり代表取締役社長 横石 知二 氏



鹿児島大学生の取り組み紹介

また, 各地域でむらづくり活動に取り組んでいる実践者との意見交換が行われ, むらづくり活動のポイントや取組が継続する秘訣等について質疑応答がありました。

特徴あるむらづくり活動に取り組んでいる3地区と, 鹿児島大学農学部の学生による取組事例を紹介していただきました。



大野地区の取組

意見交換



NPO法人まちづくり地域フォーラムがごしま探検の会の東川隆太郎氏によるコーディネーターで、意見交換を進めました。

東川氏からは、地域で儲かる仕組みをつくることは、地域経済の活性化、住民のモチベーションの向上、若い人の移住・定住につながり、今後の農村地域の振興には大切な視点であること。また、外部の活力を取り入れながら、自分たちの地域を客観的に検証できる「計画策定や見直し」への取組が重要。との意見もいただきました。



鹿児島大学農学部
李哉法准教授

鹿児島大学から、「地域活性化に向けた取組」について紹介していただきました。

鹿児島大学COCセンターでは、自治体と協働連携し、地元志向の教育、研究・社会貢献に取り組んでいる。

農業経営経済学コースでは、独自にソリューションプログラムに取り組んでおり、学生の授業の一環として、農業・農村の課題解決に向けた調査・分析の実施及びこれらの提案活動を実施している。

毎年テーマを決め、これまで霧島市佳例川地区や志布志市、鹿屋市で地域と協働で課題解決に取り組んでいる。



○ 大野地区公民館への質問

「大野に人を増やしたい」という目標を掲げ作成した「大野づくり計画」の検証はどのようになっているのか？

(大野地区公民館)

計画策定後、活動内容等を評価し、「やったこと」「これから必要なこと」など地域で話し合い、「大野づくり計画(改定版)」を平成27年度に作成した。

○ 高山地区公民館への質問

地域にあるNPOや部会など様々な組織や団体がまとまって、同じ方向を向いて取り組んでいるが、地域を一つにまとめるコツは？

(高山地区公民館)

6集落が一つの公民館になった際、高齢化が進む中で相互に支え合う仕組みが必要だとNPOを結成。毎月話し合いを実施し、細かいことでも情報共有し、集落全員で取り組むという意識を持つように心がけている。



○ 事例を発表した「日置市高山地区公民館」と「南九州市農事組合法人土里夢たかた」の取組概要を紹介します。

どりーむ

農産物集出荷サービスで 農業生産を維持する仕組みづくり 高山地区公民館・NPO法人がんばろう高山(日置市)

地域の概要

構成集落	桑木野、尾木場、郷戸、野下、高塚東、高塚西(6集落)
人口構成	(1)総人口225人(65歳以上の割合67%) (2)総世帯数129戸(うち農家戸数42戸)
主要作物	水稻、いちご、肉用牛

活動内容

① 活動のきっかけ

高齢化が進む高山地区では、車の運転が難しくなった生産者の農産物の出荷が厳しくなりつつあった。

一方、日置市の江口蓬菜館は、出荷者の高齢化が進み、品薄状態が続いていた。

そこで、高山地区の住民全員で設立した「NPO法人がんばろう高山」が中心となり、地区住民が作った農産物を集荷し、江口蓬菜館に出荷する取組を開始した。



野菜づくりが生きがい

② 農産物の集出荷システム

週2回、高山地区の野菜を集荷し、「がんばろう高山」のシールが貼付され、江口蓬菜館に出荷している。

③ 買い物対策

野菜集荷の際に、江口蓬菜館の商品カタログを住民に配布。住民の注文を取りまとめ、商品を配達し、買い物に行くことが困難となっている地区住民の課題を解決している。



野菜の集荷の様子



江口蓬菜館で販売

成果

- ① 江口蓬菜館へ共同出荷し、売れることが励みとなって、高品質な野菜づくりに繋がり、高齢者の生きがいや健康づくりに結びついている。
- ② 集荷によって地区高齢者の見守り活動にもつながっている。



みんなで地域農業を守る



かかし
「そば処案山子」と畜産経営の取組
どりむ
農事組合法人 土里夢たかた(南九州市)

地域の概要

構成集落 高田下, 中の後, 高田中福良, 中の前, 藤の下, 上の後, 上の前, 鉄山, 菊原城の前, 城の後
(10集落)
人口構成 (1)総人口 821人
(2)総世帯数 378戸
主要作物 茶, 水稻, 大豆, 肉用牛, 酪農

活動内容

① 徹底した話し合い活動で合意形成

40年近く、話し合い活動によるむらづくりに取り組んでいる南九州市川辺町高田地区では、地域の資源を生かし、集落営農によるコスト削減、労力軽減を図り地域農業を発展させるため、農事組合法人土里夢たかたを設立した。



活発な話し合い活動

② 畜産部門の取組

平成28年、廃業した酪農家の牛舎を活用し、畜産経営をスタートした。主に、乳用子牛を購入し、育成後、出産前に出荷する取組を実施している。「農の雇用事業」を活用し、地域にIターンした若者を雇用している。

③ そば処案山子の取組

地元産のそば粉を活用し、平成28年1月にそば処オープン。地元産大豆の「手作り味噌」や「押し大豆」・「生姜パウダー」などの加工品も販売している。



畜産経営の取組

④ その他の取組

高田小学校と連携した食農教育や米、大豆づくりオーナー制度による消費者との交流活動を実施している。

また、鹿児島女子短期大学と連携し、特産品開発にも取り組んでいる。



そば処案山子



大豆の加工品も販売

成果

- ① 地域の農業者の高齢化・減少が進む中、「(農)土里夢たかた」が、農地を守る受け皿となり、農地を預ける安心感が生まれた。
- ② 地区内に雇用の場が生まれ、地域活性化が図られた。
- ③ 営農組織の法人化により、雇用されている地域の人たちの労災保険加入が可能となり、安心して働ける環境が整備された。

米づくりオーナー制度での田植え交流



かごしま農村創生塾

地域資源を有効に活用して、「ひと」づくりや「しごと」づくりなど地域の活性化を牽引するむらづくりリーダーの研修を行いました。

県内各地から集まった20人の参加者は、3回の研修(うち2回は1泊2日)で、むらづくり実践者の講義を聞きながら、地域のむらづくり活動の現状や課題を相互に検討しました。

8月24日～25日

第1回

農村再生～ムラに人を呼び戻す戦略～



各地域に発表

校区毎の人口分析を実施

島根県中山間地域研究センターの藤山研究統括監による「人を増やす取組」等の講義を受け、校区毎の人口分析の演習、地域を維持するための目標人数(家族)や、仕事の組み合わせなど、各地域毎の体制等を検討するワークショップを実施しました。

県立農業大学校での1泊2日の研修で、参加者間の交流が深まりました。

11月30日

第2回

どう創る？ムラの「しごと」

「はっばビジネス」で有名な徳島県上勝町の(株)いろどりの横石社長に、「葉っぱを宝に変えたまち」をテーマに講演をいただきました。

農村の地域資源を活用し、地域の方々の居場所と出番と役割をつくり、事業を展開することが必要、等のお話を伺いました。



(株)いろどり 横石社長による講演

1月24日～25日

第3回

ムラを支える「ひと」をつくる



H28 かごしま農村創生塾の皆さん

「つらさげ芋」のブランド化や大学やNPO等と連携した交流活動に取り組む大野地区公民館の現地視察を行いました。

また、大分県宇佐市安心院町のむらづくり実践者である荷宮英二さんに、地域ぐるみの交流活動や合意形成の秘訣など、経験を交えたお話を伺い、参加者との意見交換を行いました。